

豚糞桿虫に対する
ヒネトール（ゲンチアナバイオレット製剤）の効果 第1報

長野 鍊太郎*・伊藤 祐之*

NAGANO, R. and ITO, S. The Efficacy of Hinetol (Gentiana-violett)
in Removing *Strongyloides Ransomi* of Swine.

豚糞桿虫は殆んどすべての仔豚に寄生し、多数寄生する時は發育障礙を起し、所謂ひね豚（發育不良豚）の直接、間接的な原因となるとみられているが、その駆虫は従来困難視されている。我々は三興化学工業株式会社製のヒネトールの提供を受けたので、本虫に対する駆虫効果を験した。

方法 1. 供試豚 7頭（生後日齡60日、体重6.6 kg~9.0 kg）。 2. 投薬法仔豚は保定し口腔深く本剤を挿入、絶食は行わずまた下剤も使用しなかつた。

*九州農業試験場

3. 投薬量 1日3回 1球宛、2日間連用（1球中に Gentiana-violet 0.2 gm を含有す）。

成績 1. 糞桿虫卵の排泄状況を E.P.G（糞便 1 gm 中の虫卵数）で示すと第1表の通りで、投薬終了後2~5日の鏡検において排卵はすべて陰性となり、薬剤効果は著しかつた。

2. 宿主に寄生していた鞭虫、蛔虫、大腸バランチデウム等についても同時に観察したが、薬投与による卵、原虫の減少は認められなかつた。

3. 副作用としての下痢は投薬初日より認められ、

第1表 糞桿虫卵の排泄状況 (E. P. G)

豚 番 号	経 過	投 薬 前		投 薬		投 薬 後				
		2 日	1 日	I 日	II 日	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日
1		1,039,500	1,231,200	975,900 ×	13,800 ×	0	0	0
2		37,500	263,100	31,800 ×	10,200 ×	0	0	0	0
3		82,200	263,100	89,100 ×	3,000 ×	0	0	0	0
4		44,400	165,600	226,800 × ×	0
5		83,400	50,400	133,500 ×	900 ×	0	0	0	0
6		210,600	101,100	128,700 × ×	0	0	0	0
7		30,300	50,100	25,500 × ×	0

備考：× 投薬

.... 水瀉状の下痢便のため鏡検中止。

糞便検査は午前7時、投薬は午前8時、12時、午後4時の3回。

投薬2日目及びその翌日は最もひどく、紫色に着色した恰も水瀉状の下痢便を排泄し、投薬終了後概ね5日目で正常便に回復した。また投薬後1両日、若干の食欲の減退も認められた。

4. 剖検 投薬終了後6日目に1, 7号豚を剖検した結果、胃腸に軽いカタル性炎を、また7号豚には

軽度の胃充血を認めたが、その外に異状はなかつた。

考察 本剤の豚糞桿虫に対する効果は中島の報告(第6回日本畜産学会関東支部会発表)と同様に著しいことを認めたが、副作用としてやや劇しい下痢を認めたので、薬用量、投薬法について再検討の要があると考えらる。